

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行

見る / 学ぶ / 訪ねる /

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp
[HPアドレス]
http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2019.3
第37号



最近の行事から



歴史講演会・文化財めぐり

恋ヶ窪村分水

市重要史跡指定記念

国分寺市内の玉川上水分水・水車

玉川上水とは江戸時代に人口増加による江戸城下の水不足に対処するために多摩川を水源として掘削された上水道です。上水沿いの各村に分水にされ、江戸城下の生活用水としてだけでなく農業用水としても活用されてきました。水道の整備により現在では水路としての役割を終えましたが、各地域にその痕跡が残っています。国分寺市内の各所にも、かつて玉川上水の分水が巡り、江戸時代における新田開発事業や村の発展に大きな役割を果たしていました。

平成29年12月に恋ヶ窪村分水が市の重要史跡に指定されたことを記念し、市内の玉川上水の分水と水利用の歴史を考える講演会と文化財めぐりを実施しました。

● 文化財めぐり

【日時】平成31年2月16日(土) 9:00～11:30

【参加者数】29人



文化財めぐりでは、玉川上水から砂川用水、恋ヶ窪村分水へと分水の跡に沿って歩くコースを設定しました。当時の分水の様子や利用方法をイメージしていただけるよう、かつての分水の流れや水車の位置が描かれた地図を見ながら、現在に残る分水の痕跡をたどりました。天候にも恵まれ、参加者の皆様には市内の分水に興味を持ち、楽しんでいただきました。

● 歴史講演会

【日時】平成31年2月16日(土) 13:00～16:30

【会場】国分寺市立本多公民館(本多1-7-1)

【参加者数】105人



歴史講演会では講師に太田和子先生と小坂克信先生を迎え、玉川上水の開削から各地への分水の歴史と分水を利用した水車に関する歴史が紹介されました。さらにパネルディスカッションでは、分水が市内の人々の生活に与えた影響や今後の分水関連の文化財の保護が話し合われました。

歴史講演会プログラム

- 13:00 開会挨拶
- 13:15 調査報告(ふるさと文化財課職員)
「恋ヶ窪村分水の発掘調査」
「榎戸水車の調査」
- 13:45 基調講演
「国分寺市内の玉川上水分水」
太田和子氏(国分寺市文化財保護審議会委員)
「国分寺市の水車について」
小坂克信氏(産業考古学会・水車と臼分科会代表)
- 15:20 休憩
- 15:30 パネルディスカッション
「国分寺市内の近世用水の保存と活用について」
- 16:30 閉会挨拶

恋ヶ窪村の小学校

明治 5 年（1872）に学制が公布され、全国で小学校が開設しました。大区小区制に基づいて編制された小学区は学校の運営を担う学区取締がくとりしまりにより監督されていました。国分寺市域では明治 6 年（1873）から 7 年（1874）にかけて最勝学舎さいしょうがくしゃ・里仁学舎りじん がくしゃ（後里仁学校）・断機学舎だんき がくしゃ（後新中藤学校）の 3 校が開設しました（図 1）。

最勝学舎（後国分学校）が所属していた第十区三番組は国分寺村・恋ヶ窪村・本多新田・戸倉新田・内藤新田で構成されていました。この学区では学校の立地に問題を抱えており、明治前半にかけて学校の統廃合が繰り返されました。

明治 8 年（1875）に小学校を学区の中央部分に近い恋ヶ窪の東福寺に移転することが学区取締から提案されましたが、村同士の意見が合わず、同年に恋ヶ窪村・本多新田に恋ヶ窪分校（東福寺）と戸倉新田・内藤新田に戸倉分校（万福寺）が開設されました。明治 11 年（1878）に学区取締から恋ヶ窪村に武野学校たけの がっこうという小学校を開設する計画が立てられますが、一つの学区に複数の学校を開設することは許可されず、恋ヶ窪分校は国分学校に統合され中和学校ちゅうわ がっこうとなりました。一方で戸倉・内藤新田の子ども達はより近い里仁学校に通うようになりましたが、学校不足の根本的な解決には至りませんでした。このように、学制では地域の実情に対応できない事もありました。その後明治 12 年（1879）に教育令が公布されると、学区取締に替わって学務委員がくむいんが置かれ、地域の実情に応じた学校運営ができるようになります。第十区三番組でも学区の組み換えにより中和学校が再編され明治 13 年（1880）に恋ヶ窪村に立志学校りっし がっこうが開設し、同 17 年（1884）には国分学校が八幡前（現東元町）の新校舎に移転しました（図 2）。

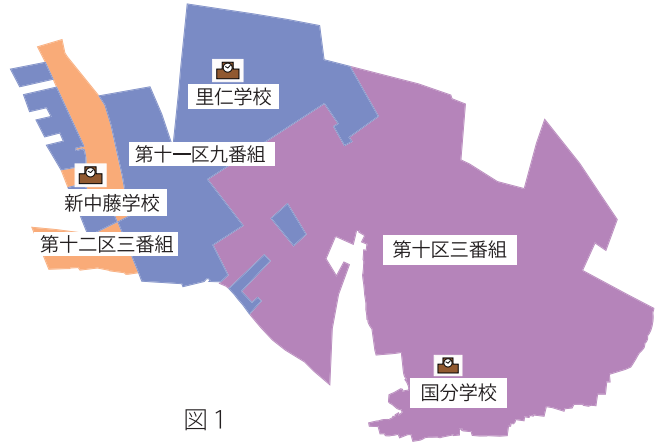


図 1

小学校の再編成

明治 22 年（1889）に 10 か村が合併し国分寺村となりましたが、村内の小学校は合併前と同様の学区でした。特に国分学校を除く 3 校は創立時の寺院を転用した校舎を使用していました。この状況を改善するために明治 24 年（1891）の村議会で学区を国分寺村・恋ヶ窪村地域の東部と戸倉新田・榎戸新田地域の西部に統合し、それぞれ新しい小学校を設立する計画が立てられました。新校舎の場所は各学区の中央部分である花沢（現南町）と富士本（現富士本町）に決まりましたが、旧学区からの引き継ぎや校舎の建設費用の確保に加え、住民の反対もありました。特に旧国分寺村では従来の場所からの移転に反対する人々により私立開成学校かいせい がっこうが設けられました。

そのような問題を抱えながらも明治 31 年（1898）に東西二学区体制に移行し、翌年・翌々年に里仁尋常小学校と国分尋常小学校が開設しました（図 3）。さらに両校に高等小学科も設置され、国分寺村の学校環境は改善されました。大正 3 年（1914）に児童の増加により両校は戸倉の国分寺尋常高等小学校に合併し、校舎は分教場となりました。この 3 校は現在の第一、第二、第三小学校の基礎となっています。（石井 秀和）

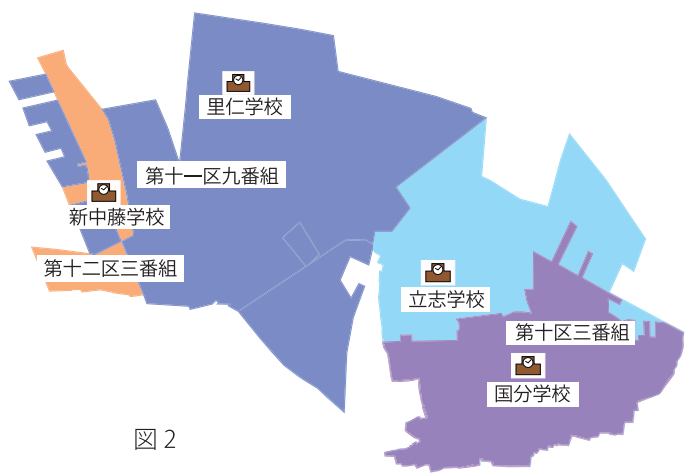


図 2

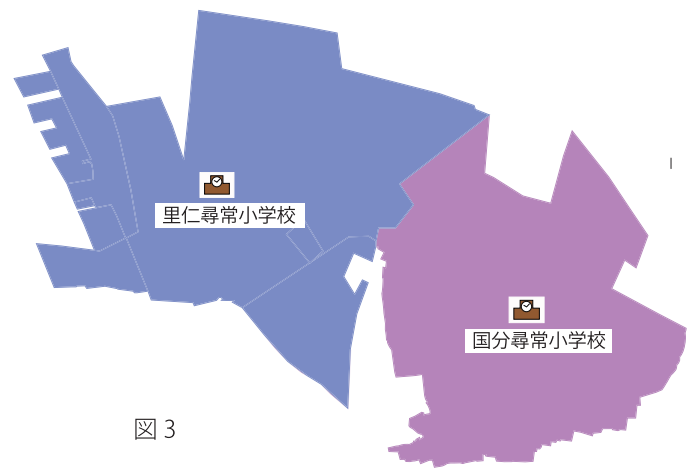


図 3

武蔵国分寺と南比企窯跡群の瓦－鬼瓦－

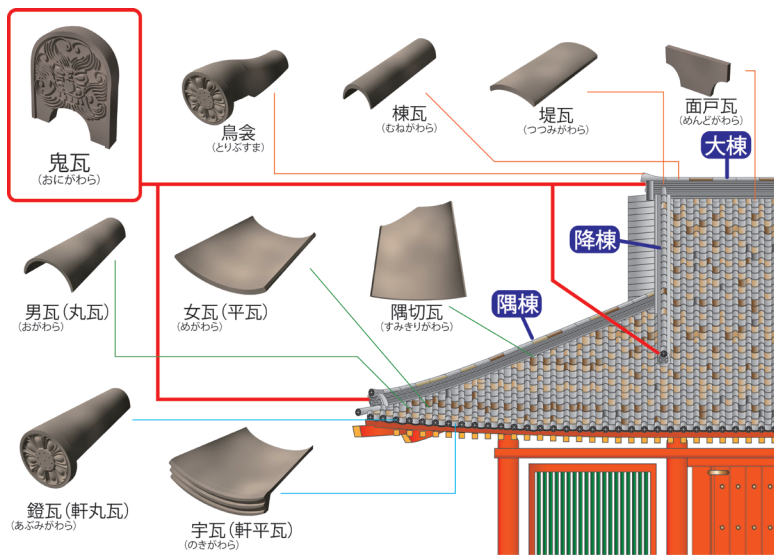
埼玉県比企郡鳩山町は、東日本最大級の古代窯業遺跡「南比企窯跡群」の中心地で、国分寺市に所在する武蔵国分寺の創建期瓦の一大生産地でした。鳩山町と国分寺市はこの瓦の生産地と消費地という往時のつながりを活かして、文化財を通じた交流・連携を進めています。平成30年3月には、互いに友好と理解をより深めるために「友好都市協定」を結びました。

この度は、連携事業の一環として今年度開催したミニ展示をもとに、武蔵国分寺の鬼瓦をご紹介します。



●古代の鬼瓦

鬼瓦は屋根の大棟や降棟、隅棟の端部に用いる瓦で、雨水が漏れ入るのを防ぐとともに、棟端を飾ります。わが国最古の鬼瓦は、7世紀前半の法隆寺出土の蓮華文鬼瓦です。飛鳥時代から奈良時代前半頃は仏教美術に重要な蓮の花をモチーフとした文様で飾り、軒先瓦の文様とセットで仏堂を荘厳していました。古代の鬼瓦には蓮華文の他に、鬼面、鳳凰文、重弧文などの文様があります。武蔵国分寺でもみられる鬼瓦文は8世紀はじめに平城宮や大宰府の造営で採用されたのを契機として、全国各地に広まります。



●武蔵国分寺の鬼瓦

これまでに4種類の鬼瓦が出土し、いずれも范型（木型）を用いて文様を起こしたものです。鬼瓦1・2は平城宮式鬼瓦の系譜下にある創建期の鬼瓦です。最も大きい鬼瓦3は、中空で突出した眼と手作りを加えた立体的な表現が特徴です。これらは下の歯牙を欠いた顔面のみを表現し、下端中央には屋根に葺く際の半円形のえぐりがみられます。鬼瓦4は小ぶり手で手をあげたような特異な文様をしています。注目されるのは、鬼瓦1の范型が相模国の千代寺院跡（小田原市）から武蔵国分寺へもたらされたことで、国分寺造営における国を越えたつながりを見て取れます。

●南比企窯跡群産の鬼瓦

南比企窯跡群では鬼瓦2が生産されます。この頃、南比企窯跡群は南多摩窯跡群からの技術導入もあり、武蔵国分寺創建期の瓦生産の一大拠点となります。鬼瓦2の文様の相形である鬼瓦1は、南多摩窯跡群で生産されますが、南比企窯跡群における国分寺瓦の生産が拡充する段階にいたり、鬼瓦1を模した鬼瓦2の范型が創出されたと考えられます。（中道 誠）



位置図

瓦の拓本体験



史跡武蔵国分寺跡で行われる第36回万葉花まつりにふるさと文化財課出張ブースをもうけて、武蔵国分寺跡から出土した古瓦の拓本をとる体験教室を行います。瓦の上に紙をあてて色鉛筆などで擦る乾拓なので、どなたでも気軽に参加できます。

平成31年2月に新しく市立歴史公園となった史跡武蔵国分寺跡僧寺伽藍中枢地域も合わせてご見学ください。

【日 時】平成31年4月28日(日) 10:30～15:00(予定)

【場 所】万葉花まつり会場(市立歴史公園史跡武蔵国分寺跡僧寺伽藍中枢地域) ふるさと文化財課出張ブース

【参加費】無料 【問合せ先】ふるさと文化財課 042-300-0073

ガイドボランティアによる史跡ミニめぐり



史跡ガイドボランティアが史跡武蔵国分寺跡周辺のみどころを紹介する史跡ミニめぐりを行います。

【日 時】平成31年4月28日(日)

①10:40～ ②11:40～

※各回1時間程度。

【定 員】各回10名前後

【参加費】無料※おたかの道湧水園の入園料100円

【集合場所】万葉花まつり会場(市立歴史公園史跡武蔵国分寺跡僧寺伽藍中枢地域) ふるさと文化財課出張ブース ※申込み不要、直接現地へ。

【コ ー ス】集合場所→おたかの道湧水園・武蔵国分寺跡資料館→真姿の池湧水群→七重塔跡→南門跡・中門跡→金堂跡・講堂跡(予定)

【問合せ先】ふるさと文化財課 042-300-0073

Free-WiFiを設置しました

平成30年10月から武蔵国分寺跡資料館内に無料公衆無線LAN・Kokubunji City Free Wi-Fiを設置しました。快適にインターネットをご利用いただくと共に国分寺市の観光やイベント情報もご覧いただけます。

来館者数

2009年10月18日～2019年2月末日

来館者数累計
128,838名

多くのご来館ありがとうございました

【9～2月の学校見学】(学年)・(人数)・中=中学校、高=高校生、大=大学生、院=大学院生
<市内>
第五小学校〔6年〕(74)・同〔3年〕(76)
<市外>
国土交通大学校(27)、法政大学(30)、創価大学〔大2・大3〕(33)、和光高校〔高2〕(25)

月	来館者数	開館日数
9	748	26
10	1,602	26
11	2,255	26
12	692	24
1	515	24
2	725	24
計	6,537	150

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

※駐車場はありません

【電車】○JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ○JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】○国分寺市循環バス「ぶんバス」万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分

○国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

○国分寺駅南口より「京王バス」系統番号〈寺83〉・〈寺85〉乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1,000円)
中学生以下……無料

【入園料の減免規則があります】

- 1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
 - 2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
 - 3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページQRコード